

「原子力産業セミナー2026」速報

2024年11月1日
(一社)日本原子力産業協会

原産協会は関西原子力懇談会と共催で、原子力産業界の人材確保支援と原子力産業への理解促進のため、「原子力産業セミナー2026」を、10月5日(土)に大阪・梅田、10月14日(月・祝)に東京・浜松町で開催した。新型コロナウイルスの影響があった2020年以降昨年まで従来の対面方式だけでなく、オンライン方式も取り入れたハイブリット方式で開催していたが、学生・企業ともに対面を希望する傾向が高いことから今年度からすべて対面方式とした。

東京会場と大阪会場には、合計433名が参加した(昨年度430名)(下記グラフ参照)。東京会場では66校から223名が参加(昨年度60校・283名)、大阪会場では49校から210名が参加した(昨年度40校・147名)。

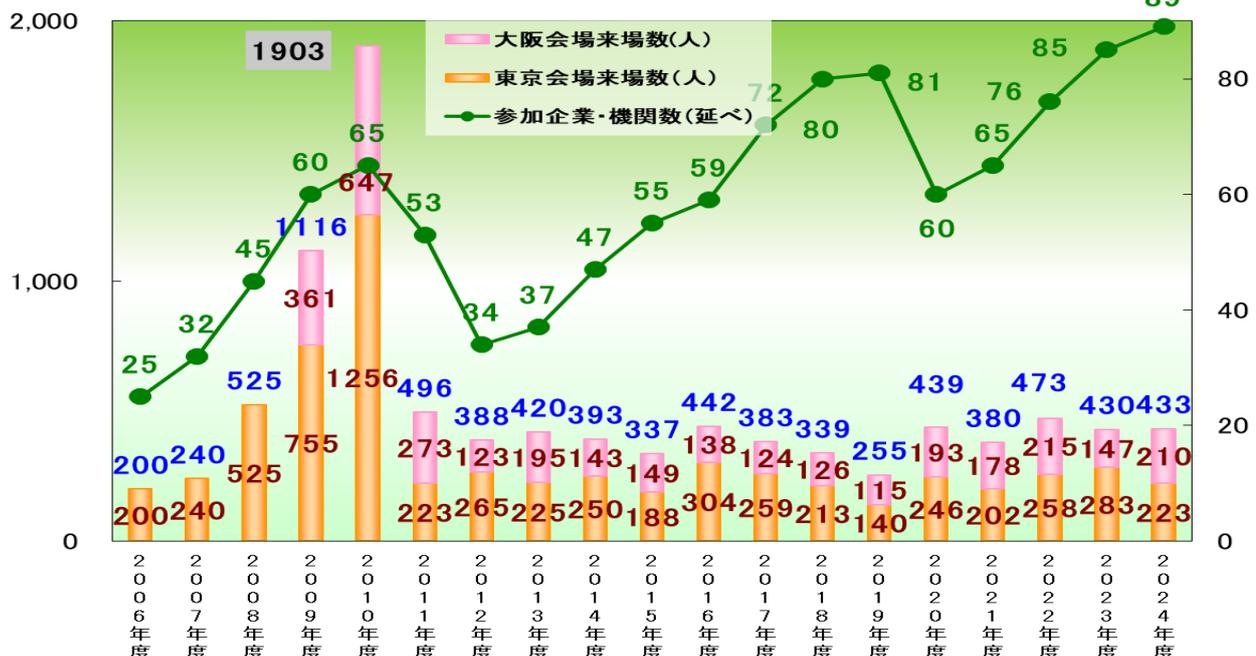
出展企業・機関数は89社(昨年度85社)となり、昨年度より4社増加し過去最大の出展社数となった。東京会場は46社(昨年度46社)大阪会場は43社(昨年度39社)であった。新卒・若手の就職活動が売り手市場となる中、企業のイベント出展意欲が高まっていることが見受けられた。

1. 概要

() 内の数字は昨年度

	大阪会場	東京会場	
開催日	2024年10月5日(土)	2024年10月14日(月/祝)	
開催場所	梅田スカイビル アウラホール	東京都立産業貿易 センター(浜松町館) イベントホール	合計
来場者数	210名(147名)	223名(283名)	433名(430名)
出展企業・機関数	43社(39社)	46社(46社)	89社(85社)

原子力産業セミナーの来場者数、出展企業・機関数の推移



2. 出展企業・機関一覧

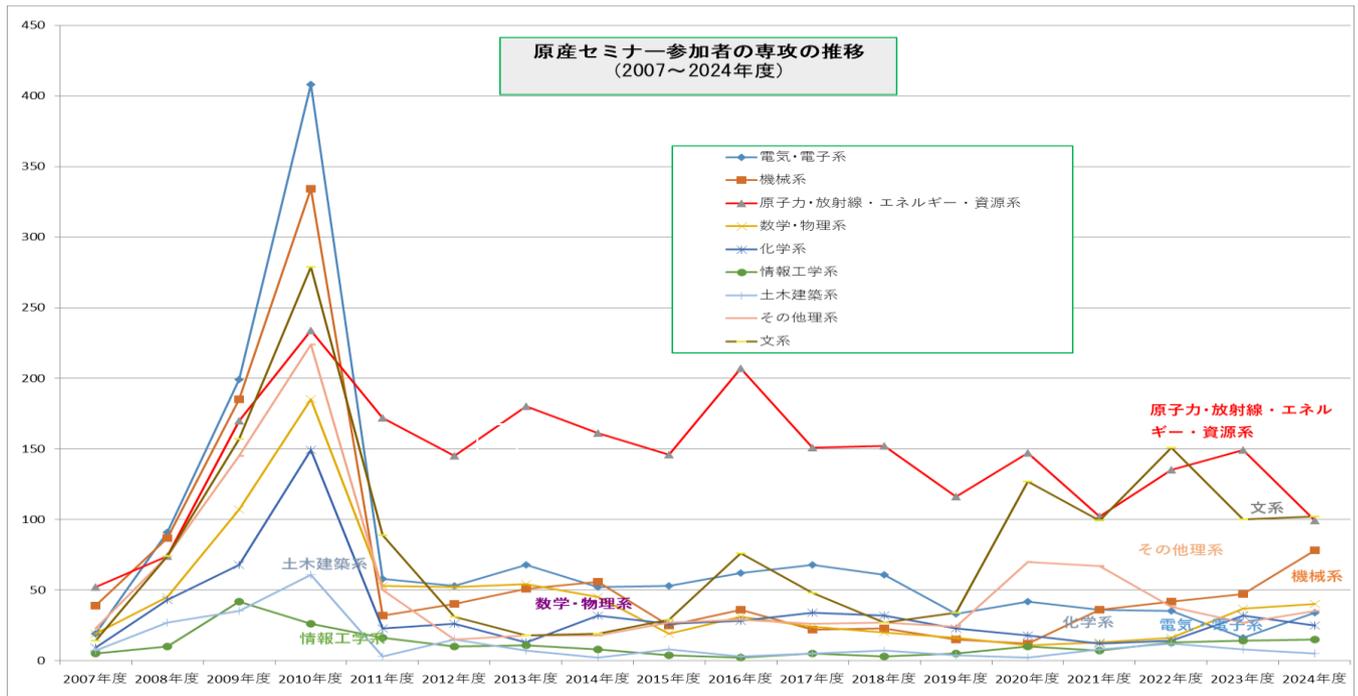
出展企業・団体 (*は初出展の企業)		
電力関連企業	東京	大阪
1 東京電力ホールディングス	○	○
2 関西電力	○	○
3 中国電力		○
4 東北電力	○	
5 日本原子力発電	○	○
6 J-POWER(電源開発)	○	
7 日本原燃	○	○
8 東京パワーテクノロジー	○	○
9 東電設計	○	○
10 テブコシステムズ	○	○
11 原燃輸送	○	○
12 関電パワーテック		○
13 関電プラント	○	○
14 原電エンジニアリング	○	○
重電メーカー		
14 三菱重工業	○	○
15 東芝(東芝エネルギーシステムズ)	○	○
16 I H I	○	○
プラント・エンジニアリング企業等		
17 アトックス	○	○
18 M H I N Sエンジニアリング	○	○
19 M H I N U S E C	○	○
20 三菱原子燃料	○	○
21 オー・シー・エル		○
22 カナデビア	○	○
23 関電工	○	
24 木内計測	○	○
25 クリハラント	○	○
26 グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン	○	
27 原子燃料工業	○	○
28 原子力安全システム研究所*		○
29 原子力エンジニアリング	○	○
30 新日本空調	○	
31 セイコー・イージーアンドジー	○	
32 千代田テクノル	○	○
33 TVE		○
24 テクノ中部*		○
35 東芝プラントシステム	○	○
36 東京ニュークリア・サービス	○	
37 NAIS	○	○
38 日揮グローバル	○	○
39 日本環境調査研究所	○	
40 日本建設工業	○	
41 日本原子力防護システム	○	○
42 N E S I	○	○
43 日立プラントコンストラクション	○	○
44 非破壊検査*	○	○
45 ベスコ*	○	
46 三菱電機プラントエンジニアリング*		○
47 コーガアイソトープ		○
48 F T E C		○
公益、独立行政・研究法人		
49 原子力安全推進協会	○	○
50 原子力規制委員会 原子力規制庁	○	○
51 原子力人材育成・確保協議会	○	
52 原子力発電環境整備機構(NUMO)	○	○
53 電力中央研究所(キャンセル)	○	
54 日本原子力研究開発機構	○	○
	46	43

3. 原子力産業セミナー2026の主な特徴と来場者プロフィール

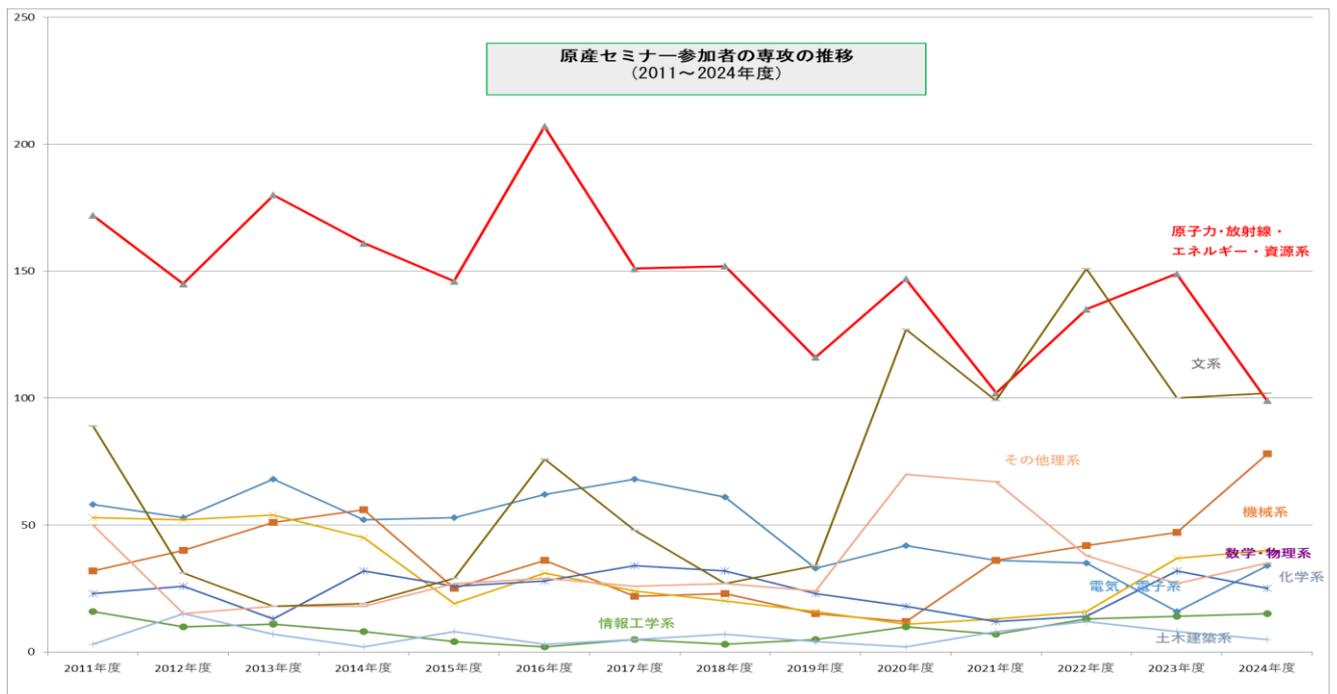
東京・大阪の両会場に参加した来場者のプロフィールは以下の通り。

- ・ 会員企業のニーズを踏まえ、理系学生を中心に案内を行ったため、東京・大阪会場の理系来場者は331名、比率は76%（昨年度77%）となった。うち既卒来場者は両会場合わせて63名（15%）で、昨年度26名（6%）より大幅に増加した。
- ・ 女性来場者は両会場合わせて88名、比率は20%で、昨年度111名（26%）より減少した。女性来場者のうち理系は、両会場合わせて61名、女性来場者に占める比率は69%であった。

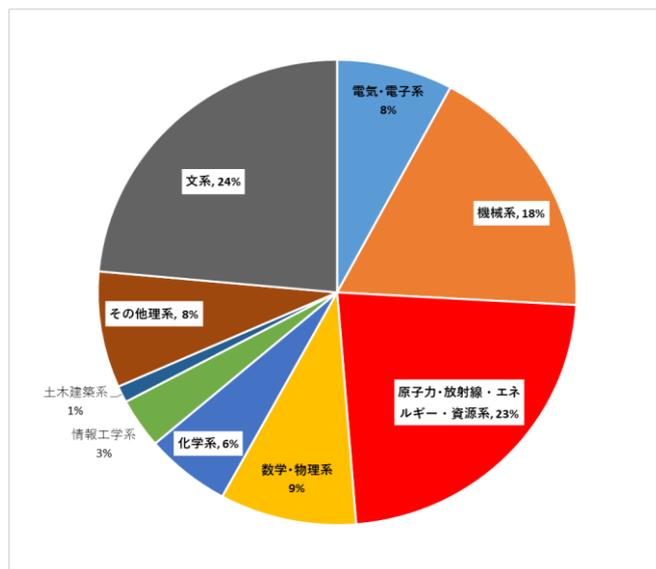
年度別での参加学生の専攻（人数）の推移は以下の通り（2007年度～）。



(2011年度以降の推移)



今年度の来場者の専攻の割合

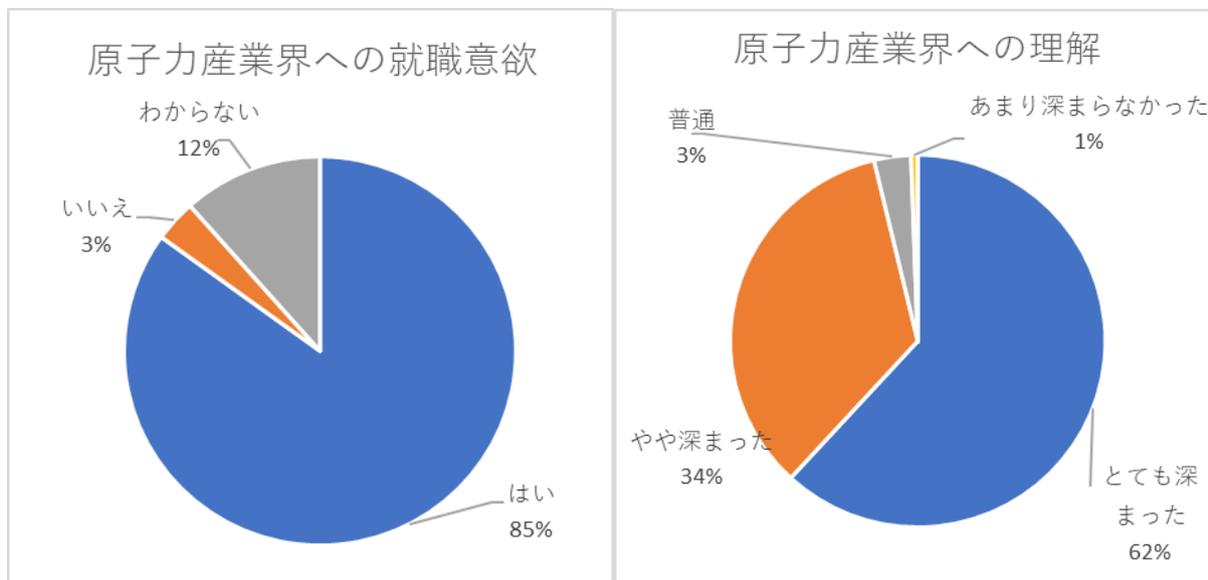


4. 来場者のアンケート結果について（抜粋）

来場者にセミナーに参加した感想や、原子力産業界への就職を視野に入りたいかどうか、原子力産業界への理解が深まったか等を尋ねるアンケートを実施した。東京会場 186 名（回答率 80%）、大阪会場 160 名（回答率 76%）の回答を得た。

「原子力産業界への就職を視野に入りたいと思いますか？」の質問には、東京で 85.5%、大阪では 84.4%の来場者が「はい」と回答した。

また、「参加したことで原子力産業界への理解は深まったか」の質問には、東京で 95.7%、大阪で 96.9%の来場者が「とても深まった」「やや深まった」と回答した。



5. 出展企業・機関の満足度と感想

出展企業・機関へのアンケートによるブース出展効果に対する満足度は以下の通り。

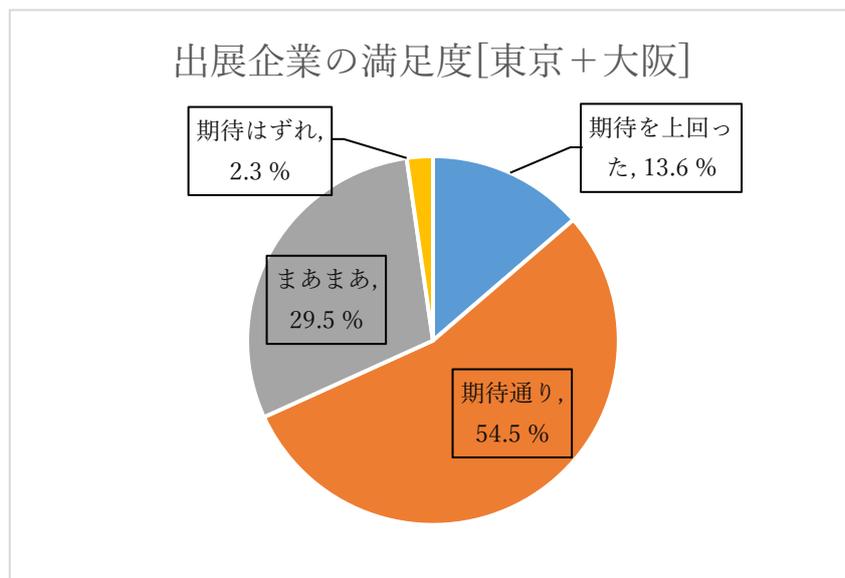
東京と大阪の合計では、「期待を上回った」が 14%（昨年度 8%）、「期待通り」55%（昨年度 61%）、「まあまあ」29%（昨年度 30%）、「期待外れ」2%（昨年度 0%）。「まあまあ」以上の評価は 98%で（昨年度 99%）、好評だった。

開催日程については、適当 53%（昨年度 59%）、まあ適当 35%（32%）、適当でない 1%

(同 2%)、その他 11%で、88%が適当と評価。

来年度の原産セミナーへの出展意向を聞いたところ、89 社（ブース）中、82%（73 社）が「出展したい」と答え、「分からない」13%（12 社）、「無回答・その他」5%（4 社）、「出展しない」は0%（0 社）だった。

1 ブースあたりの平均訪問者数は、東京は 31.6 人（13 人～77 人）、大阪は 24.8 人（12 人～71 人）（昨年度は各 33.3 人、19.4 人）。東京会場は来場者数は昨年度より減少したものの、平均訪問者数は大きく変わらず、大阪会場では来場者数が増加したことにより平均訪問者数も大きく増加した。



○出展者の声

（東京会場）

- ・ 企業研究が主な目的の学生が多く、希望する職種を決めかねている様子であった。
- ・ 熱心に話を聞いていただいた印象です。
- ・ エネルギー全般に興味を示して頂いている学生が多かった。
- ・ 当社の業務に興味を持ち、積極的な学生が多く良かった。
- ・ 放射線、原子力に興味があり、事業内容にも興味を持ってくれる学生が多くいた。

（大阪会場）

- ・ 原子力事業に関心の高い学生が多かった。
- ・ 前年同様、先生の紹介で訪問いただく学生が多かった。
- ・ 興味を持って、熱心に聞いていただいた学生が多かった。
- ・ やりたいことを明確にして就活をしている学生が多いと感じた。
- ・ 理系の中でも原子力を専攻していた方もいたのが良かった。

6. 経済産業省および文部科学省による御挨拶・政策紹介

今年度初めて、経済産業省および文部科学省より、セミナー冒頭で来場者に向けた御挨拶を頂くとともに、セミナー会場に政策紹介コーナーを設置し、両省の原子力に関する政策を紹介頂いた。

7. マスメディアの取材・報道ぶり

東京会場では、4 社・5 名のプレスが取材を行った（ブルームバーグニュース、日本経済新聞、電気新聞、原産新聞）。大阪会場では 1 社・1 名（電気新聞）が取材を行った。

10. 写真集

<東京会場>

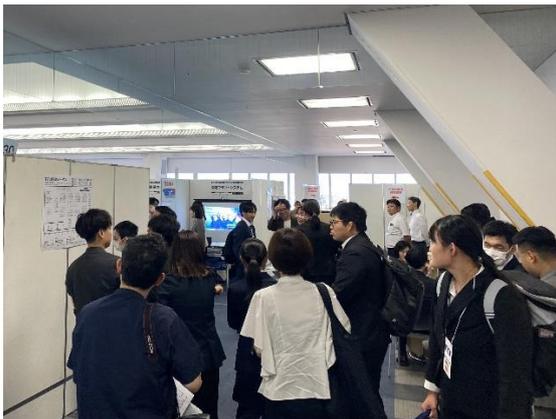


オープニング講演



出展企業ブースの様子

<大阪会場>



訪問したいブースを検討する学生



各企業ブースの様子

以上